



令和 7 年度

ちょっといい話

日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思っただけだ」「言葉」「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかげられた「言葉」「行動」が励ましになった経験はありませんか。

「このおとな身のまわりで経験した心温まる出来事を」ちよっといい話」として、令和7年の月から9月上旬にかけて募集したところ、小学校29校、中学校14校、高等学校4校、特別支援学校1校の他、一般の方からの応募も含め、106作品を寄せいただきました。その中には、

- ・正直、誠実、責任、勇氣
- ・友情、信頼、献身
- ・克己、忍耐、努力
- ・思いやり、絆
- ・尊敬、感謝
- ・家族愛
- ・命の尊重

といった思いが込められています。

そうした中から、80作品を紹介します。

人を思いやる心や人と人とのつながりを感じていただき、県民一人ひとりが、共によく生き合う力をはぐくむ機会となれば幸いです。

【おへご】

【小学校】

- 1 おぼめちゃん「さよなら」
- 2 やねこの「さ」
- 3 あいこえおのはなこ
- 4 わたしがいないいしゃしん
- 5 いつもあじがとう
- 6 いつもあじがとう
- 7 ケンカするけど、なかよしいもうと
- 8 おぼめちゃんからのわたしたちへの思いやりおもひ
- 9 わたしのお兄ちゃんにい
- 10 日の出ひで
- 11 がんばってるね
- 12 「さよなら」がつまった花はな

いとこがわらった

…
…
13

まい日ひにありがとう

…
…
14

一人ひとりじゃないから

…
…
15

めだかめだかがなついた

…
…
16

おばあちゃんおばあちゃんのごはん

…
…
17

おばあちゃんおばあちゃんの百円玉ひゃくえんだま

…
…
18

妹いもうとがうまれた

…
…
19

やさしいおじょうさん

…
…
20

かばってかばってくれてありがとう

…
…
21

きゅう食くしのデザート

…
…
22

元げん気きがで出るあいらじ

…
…
23

友ともだちの一言いちごん

…
…
24

ママからのプレゼント

…
…
25

バスケットボールが入る音

…
…
26

心こころ思おもいの母はは

…
…
27

ありがとう。わたしの友達

…
…
28

ゴミ捨すて

…
…
29

心こころぽかぽか

…
…
30

花火大会はなびたいかいの夜よる

…
…
31

ああったかお手紙てがみ

…
…
32

おばあちゃんおばあちゃんのぞうきん

…
…
33

命いのちの大切たいせつさ

…
…
34

豆まめ大福だいふく

…
…
35

「じいじ」と「あじがとじいじ」

…
…
36

横断歩道を跨いだ仲間
おしだんほどう また なかま

・
・
37

十年前のぼく
じゅうねんまえ

・
・
38

妹の歌
いもうと うた

・
・
39

あいての気持ちを考えて
きも かんが

・
・
40

いつもありがとう

・
・
41

お姉ちゃんが渡した「たん生目プレゼント」
おねえ わた たんせいめ プレゼント

・
・
42

声の力
こゑ ひかり

・
・
43

手前から取る優しさ
てまえ と やさ

・
・
44

コンビニでの再会
コンビニで わざいかい

・
・
45

弟のお姉ちゃん
あにいもうと おねえ

・
・
46

【中学校】

誰かの一言で
だれか の ことば

・
・
47

おばあちゃんの誕生日

…
48

置いてあった手紙

…
49

お盆にじいちゃんの家に行く

…
50

自分とたくさん戦ったで賞

…
51

私の欲しかった言葉

…
52

友達

…
53

なにげない一言で

…
54

花火大会

…
55

がんばってるね

…
56

あの日、掲示板で見つけた子猫

…
57

まげてくれてありがとう

…
58

お互い様

…
59

言葉のない優しれ

・
・
60

盆踊り

・
・
61

周りを見て行動する大切さ

・
・
62

誰かのためにできること

・
・
63

うずしお

・
・
64

外国人

・
・
65

先輩デビュー

・
・
66

陰で支える人

・
・
67

世界一の大心友

・
・
68

ファイト!

・
・
69

my brother

・
・
70

【高等学校】

自慢の家族

・
・
71

あいさつ

・
・
72

雨の日のバス

・
・
73

私のご近所さん

・
・
74

地域の活動を通じた交流

・
・
75

立派になったね

・
・
76

【特別支援学校】

ある人からの一言で

・
・
77

試合後の出来事

・
・
78

【一般】

生まれてきてくれてありがとう

・
・
79

生徒の声がけから生まれた笑顔

・
・
80

やわらかい「わ」

ぼくは、じゅんがじゅんが、じゅんがく
 して、はじめてのじゅんがたぐんあつて、
 ふあんなきもちでした。まいあつがじゅん
 じゅんがじゅんが、なつじゅんがじゅんが
 でも、おねんせいのじゅんが、まいあつえま
 できてくれたので、どんどんふあんながな
 くなりました。じゅんじゅんあつても、たぐん
 はんはなしかけつねつて、じゅんがじゅんが
 ぼくもおねんせいになったら、じゅんも
 らったじゅんを「じゅんじゅんじゅんあつたらじゅん
 な」じゅんもじゅんがじゅんが。



あいうえおのはなし

わたしは、がっこうでひらがなをべん
きょうしました。おかあさんへ、おしえて
もらったおはなしがおすすめです。

「あ、あ、あ。」「い、い、い。」「う、う、う。
ん。」「え、え、え。」「お、お、お。」「し、し、し。
じぶんのもんだけど、」「あ」と「い」と
「え」は、あいてがいないうまれないの
だよときました。だから、だれかがう
いじりであつて、ともだちになれることが
うんめいだからあいてをおもいやしやま
しくするじが「たいせいなものだ」とおも
いました。



わたしがいないじゃんと

ママのむかしのじゃんがあつた。

けいけんするまえのじゃんとていつ
いた。

「なんでわたしはいるの？」とまいた。

「まだ、うまれていなかった。」とつた。

「ママ、ひとりだったの？」「ちみしくな
かったの？」「とまくと、「ママのおかあさん
やともだちがいたからたのしかったけど、
あなたがうまれてもつとたのしくなつた
よ。」とつた。

わたしは、「うまれてよかったな。」と
いつた。

ママは、うれしそついで
わらつた。



小学校生

ごしゅもがやうに

Aさんは、わたしたちがつかう2かいの
トイレを毎日ごしゅくねます。きれいにそ
うごしてくねるおかげで、きもちよくタイ
シをつかえます。べんきのすきまとかがあ
るから、トイレをしかひくと、ちいぢれ
いとおもひけど、Aさんは、きれいにそ
うごしてくねします。

だから、トイレをしかひくと、ちいぢれ
ないよごしごしてつかうたごです。

Aさん、ごしゅもがやうに。



小学校生

こしおめがやうに

あへんが^{こゝ}にわたるのよお、おやういながうまね
た。あへん、こしおめがやういのだったの
おしんちやんになつたやうだ。

わうこしおい、あかちやんをみたよお、「か
わうこな」よおめしたあおだちや、あまは
「おやういをぬしおしんちになつてつた
よ。」ようつした。「あまえとなつな。」

わうこめえあまあえあへんになつたやう
つたいへんだけど、こしおめそびたい
な。

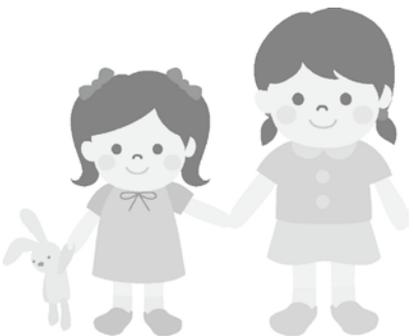


小学校生

ケンカするけど、なかよしいもつと

わたしには、四よ年ねん下のいもつとがいま
す。ほとんどまい日ひケンカをします。わた
しもおこるし、いもつともおこってきま
す。たくさんケンカをするけれど、わたし
がお父ちちさんとお母かあさんにしかられている
と、いもつとがたすけてくれます。いもう
とがしかられていたら、わたしもたすけに
いきます。

きつと、これからも、たくさんケンカを
するけれど、ずっと
ずっとなかよしいもつと
うね。だいすきだよ。



小学校生

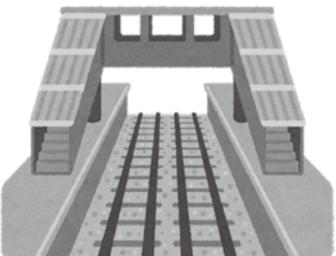
おばあちゃんからのわたしたちへの思いがこ

わたしと妹とママと、おばあちゃんち

じ、ごきげんなごしめえもでまけあわむせを
うけてます。

いつもおばあちゃんね、かいだんの下
で、わたしたちのじやをまけてくれて
ます。

かいだんの上のすずこさんでまっ
てもごきげん、わたしたちのじやをす
ぐみつけらねるよじや、あしひなな、か
いだんのすずこでまっごきげん、少し心
配ですが、おばあちゃん
からのわたしたちへの
思いがこいねし
かったです。



小学校生

わたしのお兄ちゃん

わたしのお兄ちゃんは、とう校はんのは
ん長です。いつも先頭に立って、一年生の
女の子をつれて、学校に行きます。わたし
のお兄ちゃんをとられたみたいでさみし
い気持ちにもなるけれど、「お兄ちゃんの
じつだから仕方ないなあ」といつもがま
んしています。ときどき、ぎゅっとかたを
組んできたり、いたいスキンシップもある
けれど、そんなお兄ちゃんが大好きです。



田の田

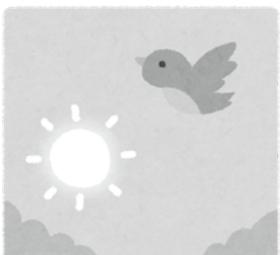
夏休みになったとき

「ぼくがなつこぬき、なつが、じしつこころんだるじや、思いました。」

なので、おじいちゃんにききました。「じゃあ、あ、あした田の田を思いつくじや、どうしました。」

じいの田、ぼくがなつこぬき、おじいちゃんがぼくをおいこました。ぼくが「なつこ、じや、おじい、田の田を思いつくじや。」と言いました。

ぼくはきがえして、水をのんで車このりしました。そよを思いつく、田ができてきねいだなと思っていました。



がんばっているね

夏休みに、ボランティアでみちのえきの
ちゅう車じょうしの「川ひろこ」をしました。
「川は、ポイすとしてもきえてなくなら
ないのよ、じじいすてゑんだらう」と思
いました。わたしははらがたつて、すじし
かなしくなりました。

そのとき、休んでいた知らないおじさん
が、

「がんばっているね。」

と言ってくれたので、じじいもうねく
てもっとがんばりたいと思いました。



「さっしゅ」がしまった花

ほへのしちのむかいのおぼえと、ほ、お
 わでバラの花をそだてていきます。まじと
 し、お花がすくすくになると、お花をみせ
 てくれたり、しませへくれたりします。し
 んだお花を花だほのちしてしてほへく
 ねます。

その花をいえにかねると、いえのなが
 あかるくなりまします。そっしゅ、おぼえの
 さっしゅもむかしたわっしゅもまします。



こじりがわらった

ぼくは、「これこのよきのよじがを（み）

た。
「ヤー、ジャー、ルー、くはーち、じゅー。」
と数（かず）えて、「い、わらってしまっました。」

おぼんじ、四（よ）か月のこじり（げい）があったとき
ました。前（まえ）にあったのは、一（いっ）か月のとき（げい）です。
ごく大（おお）きくなっていて、かわいかったです。

「いよいよいよいよ、おぼんじ。」

をしたら、いとこ（お）がわらってくれました。
おかあさんも、おぼんじもわらっていました。
た。

「ぼくもいよいよ、
大（おお）きくなったんだ
な」と思（おも）いました。



一人じゃないから

一年前の夏休み、わたしの妹は天国へ行ってしまいました。心にぽっかり穴があいてしまいました。グリーンフケアからかえる車で、ママがアイの「ストーリー」をながしはじめ「この歌はママの思いだから聞いて。」と言いました。なみだがいっぱい出てきました。わたしは妹のことを思い出さないうようにしてきました。大じょうぶなふりをしてきました。

だけど、「ストーリー」を聞いたら心が少しかるくあったかくなりました。



めだかがなついた

さいきん、家でかっているめだかにはなしかけてみたり、えさをあげたりしていたら、めだかが、ずっとこつちをみるようになってきました。前は、めだかがこつちをみる^{ハク}ことが少なかったから今、とてもうれしいです。

めだかをみていると、めだかとはなしているようにきもちになりました。



おばあちゃんのことだよ

とまきよ、おばあちゃんが、ぼくのじい
 んを作ってくれる。おばあちゃんは、ぼ
 が野菜がきらいなことを知っているけど、
 おばあちゃんが作ってくれるじいさんは、
 かならず野菜が入っている。おばあちゃん
 は、「むじして食べなくてもいいよ。」と
 言ってくれるけど、ぼくは、せつかく作っ
 てくれたから一番初めに野菜を食べた。す
 ると、おばあちゃんがすいすい食べてく
 れた。

ぼくは、あたたかい気持ちになりました。



おばあちゃんのお田舎

私のおばあちゃん家は、じなりのじなりにあります。旅行のおみやげ、作ったケーキ、食べきれない野菜のおすそわけなど、週に何回かお届けに行きます。

「おー、来てくれたんか。ありがとう。えらいねー。おじがじい。」

とほっぴつちる言葉とお田舎ーしをくれます。ふっしりのお田舎よりキラキラ光ってみえるおばあちゃんのお田舎。一緒においっしうんちに行けるよう、ためているかい。



妹が生まれた

妹いもうとが生まれうました。私わたしは、時々ときときミルクをあげたり、だっこだっこをしたり、声こゑをかけて遊あそんだりします。今いままでは、自分じぶんだけのことを考えてかんがよかったのですが、今いまでは赤あかちゃんの妹いもうとのことを一番大事いちばんたいじに考えかんがます。

泣なきやまなくて、じまるじまることも多おほいです。が、泣なきやんで、目めと目めが合あって、私わたしの方ほうを見て、み「いやー」とわらわらうこともああります。そういう時ときは、私わたしも本ほん当とうにうれうれしくなりまます。妹いもうとのえがえをおおをもっとたくさん見みたいです。



やせしおしょうせん

いつも火曜日かようびの夕方ゆうがたに、小中学生しょうじゅうがくせいにむりょうでホットドッグやかき氷かきこぼりをくばってくれる子ども食堂こどもじきやうのおしょうさんがいます。そのおしょうさんは、大きな地じしんで自分の家いへに住すめなくなった人ひとが住すんでいる所ところに行いって、温あたたかいものを作つくってくばってあげるボランティアもしていると聞ききました。

こまっている人ひとを助たすけてあげたいと思おもうのはかんただけど、それを行い動どうにでき
るおしょうさんは「すじこ」と思おもいました。
食たべ物ものといっしょに心こころも
温あたたかくなりました。



かばって聞いてあげよう

ぼくが、耳の手じゆつをして、マスクが
かけられないときがありました。ランチ
ルームで、ほかの学年の子にマスクをして
いないと注意されたとき、同じ学年の子
ちが、

「その手じゆつをしたからマスクが
かけられないんだよ。」

と、ぼくが話す前に、ぼくをかばって
てくれました。ぼくは、注意されたとき
ドキッとしたけど、ぼくのことを考えて
言ってくれたのび、とてもうれしかった
です。



元気が出るあいさつ

朝、家を出るとき、お母さんとお父さんに「行ってきます。」と言います。家を出て、庭の前のいすにひいばあちゃんとおばあちゃん、そして近所のおじちゃんが、「行ってらっしゃい。」と毎口言ってくるので、元気が出ます。そして、私は「行ってきます。」と元気に言って、集合場所へ向かいます。

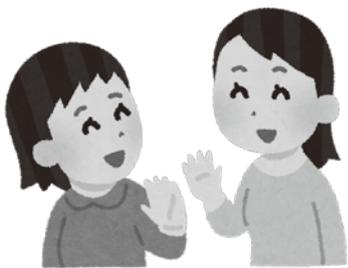
おかげで三倍元気ができます。



友だちの一言

夏休みの朝、買ったばかりの服を着てか
 がみの前に立つと、そでが短くて、とても
 はずかしくなった。ちゃんとして着して買っ
 てもらったのに、なぜかその時ははずかし
 くなった。お母さんに言いつ、「自分がほし
 いと言ったんでしょ。」とおいられた。しょ
 んぼりしてラジオ体そうに行ったら、友だ
 ちのNちゃんが「かわいいね。」と言ってく
 れた。

はずかしかかった気持ちが一しゅんでふ
 きとんだ。私は、Nちゃ
 んに「ありがとう。」と
 言った。



小学生

ママからのプレゼント

わたしは、一年生のとき、学校に行きた
くあげてもらった。

そのとき、ママが、「どうしたの。」と声を
かけてくれました。ママに、学校に行きた
くなりたいをはなしました。

じぎの日に、わたしが、学校に行くと
したとき、ママが、「がんばれ。」とおまもり
をくれました。その日から、わたしはおま
もりをもっていくのが楽しみで学校に行
くのも楽しくなりました。



バスケのボールが入る音

ぼくは、コーチにおいられて、家に帰って落ちこんでいた。すると、外から「スパツ」という音が聞えてきた。その音は、お姉ちゃんが、バスケをしていた音だった。ぼくもバスケをしようと思い、外に出て、いって、ゴールに、ボールを入れてたら、ゴールに入って「スパツ」という音がした。その時、「コーチにおいられないように」、「練習しよう」と思った。



心の母

わたしの母は、いつも家族めんどうを見てくれています。そのため、母は、おこつたり、イライラしたりすることもあると思います。わたしは、母の仕事用のバックに、プールカードにはんこをおすのでいじり行きました。すると、わたしが小さくころに作ってあげたかざり物をこわれていても、かばんの中に入れてありました。

それを見て、心がぼかぼかしました。それからそのいじりを出すと、なみだが出てきます。わたしの母は世界一の母です。



ありがとう。わたしの友達

わたしが二年生の時、児童集会のしかいで言葉をまちがえてしまいました。みんなはおもしろかったのか、とてもわらいました。わたしは、わらわれたのがはずかしくて、なもだがぼろぼろ出てきました。児童集会が終わった時、わたしの友達がおこつてわらったみんなを「わらったらだめだよ!!今すぐあやまって。」とおこつてくれました。

わたしは、おこつてくれたのがとてもうれしくて、もっとなみだが出てきました。あのときは、あじがじい。



ゴミ箱

ぼくが 捨てようと思ったゴミを一歳の妹が捨ててくれました。

ぼくはびっくりしました。まだ小さいから話が分からないので、ぼくのしゅじょうとしたことをやってくれたからです。

そんなぼくのかわいい妹は、それからなんでもゴミ箱に捨ててしまうのでお母さんは、じまひしてあげた。

でも、毎日楽しくておもしろいことをする妹は、ぼくの大事な家族です。



いばかばか

家族で買い物に出掛けた時、商品棚にその場所じやない商品を発見した。

すかさず私は、商品を元の棚に戻した。

それは普段お母さんやお父さんがやっていることで、それを見ていた私も習慣になり、私の行動した姿に家族が気付き、グツトポーズのサイン「プラスポイント」と言ってくれた。その時、自然と笑顔が出ちゃうんだな。



花火大会の夜

花火大会の夜、家族でお店の前のベンチに座って見物した。アイスクリームを買って食べながら花火を待っていると、隣にはあさんがひとり座った。初めは、「こつ」とあいさつしただけだったけど、花火を見上げているうちに、お孫さんの話を聞いたり、スマホのカメラの使い方を教えてあげたりして、仲良くなった。きれいに撮れた花火の動画を「明日お友だちに見せるわね。」と喜んでくれた。

短い時間だったけれど、すてきな時間だった。



あつたかお手紙

私は、なかなか会えないお父さんについても手紙を書いています。その日の出来事など、短い文章だけど、お父さんは大事に取っておいてくれています。時々返事が書いてあると、とってもうれしくなります。そのやりとりを見ているお母さんもうれしそうです。

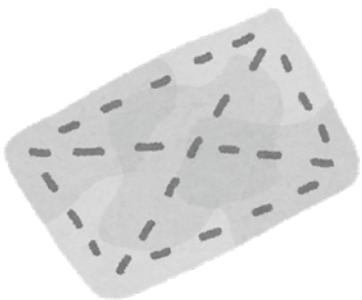
なかなか会えなくても、手紙のやりとりで、つながり合っていると感じられます。これからもちよつとしたことなどを伝えて合っていきたいと思えます。



おばあちゃんのをしきん

学校がっこうに持もって行くのをしきんは、いつも、
ひいおばあちゃんがぬってくねってしま
た。ですが、ひいおばあちゃんは、昨年ちくねんの冬ふゆ
になくなってしまいました。「のをしきん、ど
うしようかな。」と、みんなで話はなしていた
ら、おばあちゃんが「じゃあ、おばあばがぬっ
てあげるよ。」と、言いってくねました。

そして、今年ことしの夏休なつやすみ、祖父母そふぼの家にいえ
行いったら、のをしきんをたくわんぬって
くねました。そののをしきんで、学が校っこうをきれ
いにしようとしたら、



命の大切さ

ぼくは、小ねこーんからとても生き物が好きで学校や家で生き物をかんさつしていました。学校で、いつもものように生き物をかんさつしていると、近くで虫を水にかばせて、うかんべーる虫をふみつぶすということをしている子たちがいました。

ぼくがちゅうごうしてもきいてくれなくてしまったとき、Aくんが、「命はとても大切なんだよ。」とやさしく教えてあげていました。そのすがたをみてぼくは、とても「すてきな」と思いました。



豆大福

私のおじいちゃんは、体が不自由で、グループホームに入所しています。おじいちゃんは、団子やお餅が大好きなので、豆大福とよもぎ餅を買って、グループホームに会いに行きました。するとおじいちゃんは、「豆が嫌いやー」とよもぎ餅を食べながらさげびました。びっくです。

でも最後に、「お前に会えてよかったわ。」と言ってくれました。うれしかったです。また大好きなお餅を持って、会いに行きたいです。



「じい」と「おじがじい」

家族で大阪万博に三回行った。すごく混んでいて暑かったけど、どこからも怒っていない声は聞こえなかった。びっくりするほど並ぶのに、押したり、順番をぬかしたりすることがなくて「じいねえ」「じいねえ」とゆずじあつてみんな並んでいた。ご飯を食べる所も混んでいた。空いたテーブルに、他の家族もちよつど来たので、「おへは」「じいねえ」「じいねえ」とゆずったら、「じいちも空いたよ。」と声をかけてもらった。

大阪万博では「じいねえ」。「おじがじい」をたぐひと聞いた。



横断歩道を跨いだ仲間

「皆は一人の為に」という言葉があるが、
 正直現実味がなかった。下校中よく横断歩
 道で取り残される子が出る。本来待たなけ
 ればいけないのに渡ってしまうのでどう
 したものかと思っていたある日、一人の子
 が取り残された。横断歩道を跨いで一人と
 数十人。皆渡ってしまうのだらうと思ひ振
 り返ると、全員が立ち止まり、一人を待つ
 ていた。横断歩道で繋がれた絆が見えた。
 そこで私は気づいた。
 大切なことは「一人」に
 なって考えることだよ。



十年前のぼく

八月十二日に、中津川の「おいでん祭り」の花火大会に行ってきました。屋台がたくさん出ていて、人もたくさんいました。おこづかいで、ポテトを買って歩きながら花火を見ていたら、お母さんが「こぞ十年前も花火を見て写真をとったんだよ。」と教えてくれました。

十年前と同じように、お父さんにかた車をしてもらって写真をとりました。ぼくは大きくなっていたぶん、お父さんが小さく見えました。



妹の歌

私^{わたし}が家^{いえ}で、校歌^{こうか}のばんそうを練習^{れんしゅう}して
 るとき、妹^{いもうと}がばんそうに合^あわせて校歌^{こうか}を
 歌^{うた}ってくれました。私^{わたし}は、当^{とう}時^じ五^ご年^{ねん}生^{せい}で、六
 年^{ねん}生^{せい}の卒^{そつ}業^{ぎょう}式^{しき}に校歌^{こうか}のばんそうをたのま
 れていました。でも、失^{しつぱい}敗^{ぱい}するの^のがこわく
 て、練^{れんしゅう}習^{じゅう}でもきん張^{しやう}しすぎ^{すぎ}てしま^{しま}い、失^{しつぱい}敗^{ぱい}
 が増^ふえてしま^{しま}っていました。そんな時^{とき}、妹^{いもうと}
 が音^{おと}に合^あわせて楽^{たの}しそ^そうに歌^{うた}ってくれた
 こと^{こと}できん張^{しやう}が解^とけていきました。

おかげで本^{ほん}番^{ばん}は成^{せい}功^{こう}
 しました。思^{おも}いっきりほ
 めてくれた妹^{いもうと}が私^{わたし}は大^{だい}
 好^すきです。



あいての気持ちを考えて

私が一年生だったときに、先生の足をふんでしまいました。

私は先生に「ごめん。」

と言いました。そして次の日、先生がクラスみんなに「〇〇さんが昨日先生の足をふんでしまって、そのときなんて言ったでしょう。」とたずねました。私は、「ごめんなさい」と言ってなかったからおこられると思っでドキドキしていました。すると先生は、「ごめんと書いてくれてありがとうございます。」と言ってくれました。クラスの全員から大きな拍手があつてちよつとうれしかったです。



いつもありがとうございます

わたしの家の前で、今、歩道を直す工事をしています。暑い中毎日、道路で旗ふりしたり、ほそごうしたりして、歩道は、だんだんきれいになってきました。

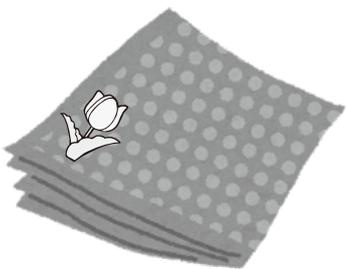
しかし、私は、私はずしい家の中ですいません。私は、工事をしている人に、何か感謝を伝えたいと思い、お出かけで家を出た時に「ありがとうございます。」「と、頭をさげ、感謝しています」という気持ちを伝えました。私はこの方々が「すばらしいな」と思いました。



お姉ちゃんが渡したたん生口プレゼント

お姉ちゃんは、お母さん、お父さん、おばあちゃんのそれぞれのだん生口に黄色のチューリップの刺しゅうをしたハンカチを渡しています。私は、なぜ同じ物をあげているのかふしぎでしたが、簡単だからやっているんだと思っていました。

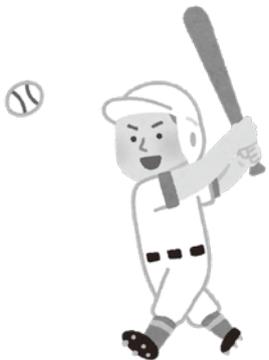
お姉ちゃんに聞いてみたら、黄色の花には、健康を意味する花言葉があることや他にも皆同じ花にした理由はいつまでも一緒にいてほしいというお姉ちゃんの思いがこもっていることを知り、心がほかほかしました。



声の力

「今日もがんばっているね。」夕方、野球の練習をしていると、近所の人が声をかけてくれます。「ありがとうございます。」と僕は、ぼうしを取って頭を下げて返します。しばらくすると、「上手だなあ。」と通行人が声をかけてくれます。僕は軽く頭を下げて、また練習を続けます。

誰かが声をかけてくれるたびに、僕のボールに力が入ります。知っている人でも知らない人でも、応援されると力になるなと感じています。



手前から取る優しさ

私は、母とよく買い物に出かけます。牛乳、ヨーグルト、卵などの賞味期限や消費期限が記された食品が並んでいる棚から商品を手取る時のことです。母はいつも賞味期限の近いものから、手に取ってカゴに入れます。すぐ調理して食べるのだからと乱れた商品を眺めながら言います。

私も、食品ロスを減らすひとつの取り組みとして、手前取りを心掛けていきたいと思えます。



ロンビニでの再会

ある日、ロンビニへアイスを買いに出
 けました。レジに向かうとそこに見覚えの
 ある人形がありました。数か月前に妹が無
 くした人形でした。おどろきとまた会えた
 喜びが一しゅんで胸に広がりました。まさ
 か再会できると思わなかったのです。とて
 もうれしくなりました。「このぬいぐるみこ
 こにずっとあったんです。」と店員さんが
 教えてくれました。

店員さんのやさしい心遣いで私は改め
 て大切な物の価値を感じました。



弟のお姉ちゃん

最近、十歳はなれた私の弟がよくマネをするようになった。私が笑うと弟も笑う。私が手を挙げると弟も手を挙げる。悪いところもマネするし、いいところもマネする。

私はお姉ちゃんだから、「しつかりしないと」「そう思うと不思議とやる気がわいてきて」「がんばろう」として気持ちよくなる。



誰かの一言で

「自分がやりたいことをやねばいい。」小学六年生の委員長に挑戦してみようか悩んでいた時、父がかけてくれた言葉です。最初は初めてやるし、本当にできるかなと不安な気持ちが大きかったです。でも父がこの言葉をかけてくれた時から「やってみよう」と委員長に挑戦することができました。

悩んでいる子がいたら一言かけてみんなに勇気をあたえられるそんな人になりたいと私は思いました。



中学卒

おばあちゃんの誕生日

八月十六日は、僕の亡くなったおばあちゃんの誕生日でした。僕達家族は、ケーキ屋さんでムースのホールケーキを買って連絡もせずにおじいちゃんの家に行きました。仏壇にケーキをおそなえしてから、ケーキを食べました。

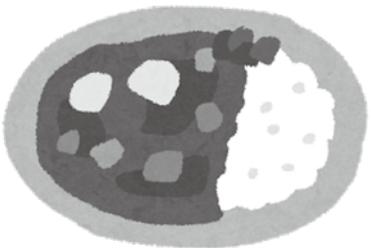
みんなが食べ終わったところに、おじいちゃんが、冷蔵庫から2個入りのチーズケーキを「食べるっ」と出してきました。おじいちゃんもおばあちゃんのケーキを準備していたのを知って心もおなかもいっぱいになりました。



置いてあった手紙

僕が反抗期になって、自分の部屋に閉じこもってしまったときの話です。家に帰って、親にテストを見せました。すると、母が、「いいすればもっと点がとれた。」「いいを頑張ればもっと点がとれた。」「アドバイスをくれました。でも、そのときはとてもイライラしていたので、馬鹿にされると思い、閉じこまりました。

しばらくすると、手紙とカレーが置いてあり、手紙には「こんなことで嫌いにならないよ。」とあり、それをみて泣いてしまいました。

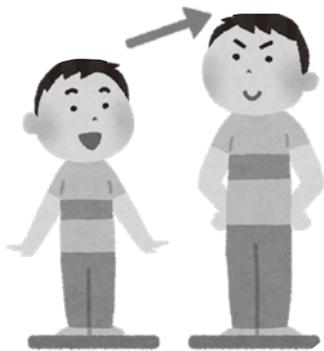


中学年

お盆にじいちゃんの家に行く

毎年お盆に、じいちゃんの家に行きます。その日は、祭りと花火があるから毎年楽しみにしています。じいちゃん家に行く度に、じいちゃんの家で僕と弟の身長を測ってくれるのが楽しみです、毎年少しずつ去年の自分を超えるのが目に見えて分かるのが好きです。じいちゃんが毎年少しずつ成長してる僕たちを見て「今年も去年より大きくなったなあ」と言ってくれます。

その言葉を聞きに来年もじいちゃん家に行きたいです。



中学卒

自分とたくさん戦ったで賞

僕が小学6年生の時、理由は今になっても分からないけど学校にあまり行けませんでした。

夏休みが明けてから給食だけ食べて帰る日々を送っていて自分だけこんなのでいいのかなと心に罪悪感がありました。

卒業式の日、先生は、生徒一人一人に頑張ったことが書いてある賞状を渡しました。その時、僕がもらったのは「自分とたくさん戦ったで賞」でした。もらった瞬間に心が温まりこの一年を無駄にしなかったようで一番嬉しい出来事でした。

自分とたくさん
戦ったで賞
○○○○○○○
○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○
○○○○○○○

私の欲しかった言葉

私は、小学四年生の時、病気で十日ほど入院していました。入院してから、ずっと不安で、一人でいるのが怖かったです。そんなとき、家族は泊まりこみで看病してくれました。不安なときは、手をにぎって、「大丈夫。大丈夫。」と優しく包みこんでくれました。当時の私にとって、その言葉はまるで魔法のようだと思います。あたたかく安心できるものでした。

あの時の家族のように、私も誰かのことを安心させられる人になりたいです。



中学年

友達

私はよくいじられていた。友達だから嫌
じゃなかったし、楽しかった。でも、冗談だ
と分かっているけど、完璧に割り切ることが
できなかった。そんなとき、友達から「ひど
いこと言われても笑ってごまかしてたか
らさ、いつか壊れそうで心配だった。」と言
われた。

衝撃だった。私は、私が思っていたより
ずっと傷付いていたことも、友達が気付い
ていたことも。あれだけたくさん友達と
笑っていたけど、なんだ
か泣きそうになった。



中学年

なにげなご一言で

自分は、つらい時なども周りに迷惑や心配かけたくないから、いつも誤魔化している。けれど、毎回一人だけ「どーしたん？大丈夫やないやろ？」と毎回聞いてくれて、その時だけ誤魔化さずに、話すことができてる。話してる時も、話し終わった後もいつも寄り添ってくれます。

相手からしたら、普通のことだと思って
いるかもしれないけど、自分はそのなげ
ない一言に毎回救われています。



中学卒

花火大会

私は、夏休みに、花火を見に行きました。
花火大会で、警備の人が暑い中ずっと周りを
見ていることに気づきました。私は、楽しんで
いる間も、その人たちは動かず仕事を
していました。当たり前のように思っ
ていたけど、仕事をしている人たちがいるか
らこそ、安心して楽しめていたんだと思
いました。

裏では誰かが支えてくれたことに
気がつくことができたし見えないところ
にも大事な役割があると感じました。



中学卒

がんばってるね

勉強が苦手で、テストの点が悪いことが多いです。自分から勉強に取り掛かることが全然ないので親に怒られることがあります。数学のワークの提出日があります。今回もギリギリの提出でした。「やってしまった」など思ったけど、ワークが返ってきて先生のコメントを見ると、私が頑張っている所を先生が書いてくれました。そのコメントを見て私は頑張ってたよ。思ったし、これからも頑張ろうと思いました。



あの日、掲示板で見つけた子猫

塾の掲示板に「子猫の預かり先募集」と
 書かれていた。なんとなく気になって引き
 取ったその子は、最初シャーと威嚇してき
 て、「ごはんも食わずに隅っこにいた。でも
 毎日話しかけ、「ごはんをそっ」と置いたら、
 少しずつ心を開いてくれた。
 今では私の足元にすり寄ってきて、名前
 を呼ぶと走ってくる。気づけば、ただの預
 かりではなく、かけがえのない家族になっ
 ていた。あの掲示板との出会いに感謝して
 いる。



中学年

まげてくれてありがとう

ぼくは、お菓子が欲しくて近くのお店に行きました。ぼくは百十円のお菓子を買おうとしました。けど十円足りませんでした。ぼくは幼かったので泣きそうになってしまいました。けれどそのお店の店主さんは、「内緒にしてね。十円まげてあげる。」と言いました。幼いぼくはありがとうとも言わずそのままお店を出てしまいました。しかし大きくなった今、もう一度ありがとうと言おうと思いました。

※まげる…東白川の方言で
値段を安くする
ことを指します。



お互い様
（たがさま）

大好きな父が単身赴任になって約三年の間、私と父のきままずい関係に変化がありました。それは「最近どうなの」とやけに聞いてきたり、私や妹の習い事の送り迎えを進んでやるようになったことです。そんな時の父は、普段の無表情とは裏腹に照れ臭いのです。私は、父が紡ぐ一言二言のぶつきらぼつな言葉は、父なりの愛情表現なんだと気付きました。

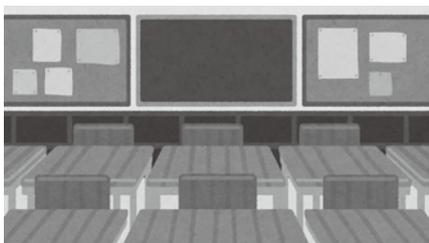
まあ、そんな私も、父に対して素直に思いを口にできた試しがないのですが。



言葉のなご優つれ

掃除のあと、教室へ戻ると私の机と椅子がピシッと整っていた。バラバラだったはずの列も揃い、教室全体が少し広く感じるほどだった。あの短い間で誰かが何も言わずに、「一丁一丁に揃えてくれたのだと思う。誰にも見られず、声もかけず、ただ綺麗に並べておく。その行動に、私は心の奥がじんわり温かくなった。

言葉では伝わらなくても、きっと誰かは見ている。そう思ったなら、私は背筋が伸びて心の中で「めいげよし。」と言った。



盆踊り

夏祭りでの出来事。太鼓を囲み、盆踊りを踊るおばあちゃん達。ここで「俺が踊ったら笑いとれるんじゃないかね？」最初はそんな気持ちで輪に入りました。すると、案の定、友達も笑ってくれました。だけど続けているうちに友達や地域の子どもまで、輪に入って踊っていました。その時、「心から楽しい」と思いました。

地域のおばあちゃんが、「若い子が踊ってくれると元気が出るし、嬉しい、ありがとうね。」と言ってくれて、心が温まりました。



中学年

周りを見て行動する大切さ

ある日、私は家族と電車に乗っていたとき、私のとなりに女子高校生がすわっていた。高校生が、前にいたおばあさんに、自分が見た。おばあさんを見ると赤色のヘルプマークをつけているのが見えて、女子高校生はそのマークに気づいて席をゆずっていただいたと理解し私はおぼろいいた。

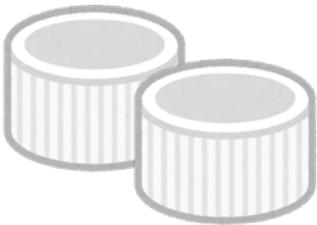
私は席をゆずってあげることができずに後悔したが、女子高生のように、周りを見て行動することが大切だと思えた。



中学卒

誰かのためにできること

私わたしが生ままれる前まえからずつと集あつめていた
ペットボトルキャップを家か族ぞくみんな
洗あらった。段たんボール箱はこ五ご箱こ分ぶん。ペペットボトトル
のキャカップがワワクチンにカ変へわるといいう取と
組くみを知しった家か族ぞくがずずつと集あつめていたもの
だ。約やく八はち百ひゃく個こで一人ひとり分ぶんのポポリオリワワククチンに
なる。捨すててしままえば「ゴミ」にななるけれど、
このキャカップが誰たれかの命いのちを救すうと思おもうと
暑あつくても頑がん張ばれた。
まだまだ全ぜん部ぶ洗あらいきれない。でも、この
夏なつのううちちに届いたけいに行くい。誰たれかの命いのちを守まもるた
めに。



中学年

しゅうしお

小学四年生のいとこが、祖父に夏の旅行で見た鳴門のうずしおの絵手紙を送ってきた。それを見て祖父が船からうずしおを見ながら、いとこのつむじをくりくりとなでているのを思い出し、「僕にもこんな時があったんだな」と思うと一人でにんまりしてしまった。僕の中では、その絵手紙は「優秀賞」だ。筆で書いた字は力強く、絵も上手だった。

また皆で、旅行に行けるのを楽しみにしながらうずしおの絵手紙を見ていた。



外国人

車で家に帰っていると、信号機のない横断歩道を渡る一人の外国人の人がいた。最近、ニュースで外国人の人についての悪い行爲について聞くようになり、「嫌だな」と思った。でも、その人は渡り終わった後、車の方を見て礼をしていた。

その姿を見て、すべての外国人の人が、ニュースのように悪い人じゃないと知り、外国人というだけで勝手に決めつけないようにしようと感じた。



先輩デビュー

私は三年生だが、二年生の時は、一度も「先輩」と呼ばれたことがない。ゆえに「先輩」と呼ばれることに憧れている自分がい

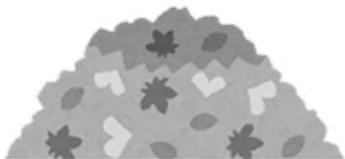
た。
 そんな私が初めて「先輩」と呼ばれたのは三年生になってから間もなくのことで呼んでもらえた時は脳内で舞い上がった。ついに「先輩デビュー」を果たしたのだ。慣れない感じだったが嬉しかった。もっと頑張って先輩にふさわしいようになりたい人になりたい。



陰で支える人

私が登下校の時に使う道には、たくさん
 の枯葉が落ちていることがあります。登校
 の時間帯では散らかったままなのに、下校
 の時には道の端にどこかされていきました。そ
 のようなことは一度きりだけではなく、何
 日も何日もあります。誰が、いつやってく
 ださっているかは不明ですが、いつも通る
 たびに感謝しています。

そんな人が増えたらいいなとも思うし
 自分が陰からでも支えられるような人にな
 りたいです。



中学卒

世界一の大心友

私は、何事も一人で溜め込んでしまう癖
があります。誰にも相談せずに溜め込み、
やがてコップの水が溢れるように限界を
超えて何もかもどうでもよくなってしまう
う。さすがにこのままではいけないと思っ
た私は、このことを友達に相談してみまし
た。すると、「こうやって私に相談してくれ
ているのが一番嬉しい。これからも何でも
相談して。絶対助けるから。」と言ってくれ
ました。

こんな友達を持って良かった。今では世
界一の大心友です。



中学拳

ファイター！

「ファイター」この言葉は人を勇気づけ元気にさせることができます。私はこの言葉を言うときも言われるときも背中を押されたような押しあげたような良い気持ちになり、「頑張ろう」と思えます。「大会ファイター」「勉強ファイター」と家族や友達に言ってもらい前向きに全力で取り組むしかないといういろいろなことに対して頑張れるようになりました。

誰かを応援したとき元気がないと感じたとき「ファイター」と声をかけてあげてください。



中学年

My brother

僕が学校から疲れて家に帰ると「いいだっこー」と言われます。学校が終わって疲れているのに毎日言われてもっと疲れます。だっこしないと泣いてしまうやんちやな弟です。でも、疲れているはずなのに、結局だっこしてしまっし、重たいはずなのに疲れをとってくれます。年齢は十歳以上も離れているけれど、疲れた僕をいやしてくれる可愛い弟です。

そんな弟には言っても理解できないから言わないけれど、いつも感謝しています。



自慢の家族

私の祖母は、足腰が悪く外へ出てご飯を食べに行くときも、ちよつとした段差に躓き階段で転んでしまいます。なので、いつも車から降りて歩くときは、必ず手をつないで歩幅をそろえて歩くようにしています。他にも、母は祖母を買い物に連れて行ったり、姉は、病院の送り迎えをしたりしています。

家族で足腰の悪い祖母をみんなですべて支えることができる私の家は、良い家族だなど誇りに思います。



雨の日のバス

私は学校までいくのにバスを使っている。その日は雨がふっていて、席は満席だった。そんな時に、つえをついているおばさんが乗ってきた。その時、私は席に座っていたので譲ろうとしたら、他の人も二、三人同じタイミングで立ち上がった。みんな一斉に立ち上がったから、おばさんは誰の席に座るかおぼろしかった。一斉に席を譲る姿にとっても心がほろろした。



私のご近所さん

わたし いえ ちか
 私の家の近くには、すてきな人が沢山
 わたし かい いろ
 いる。帰り道で声をかけてくれるおばさん。
 かいさいえん しゅみ でき やわら
 家庭菜園が趣味で出来た野菜と自作のシ
 こいっけい べい
 シピを一緒に届けてくれる隣のおばさん。
 だいがく しんがく えんぼう
 大学へ進学し遠方にいるが、帰省時にいつ
 みやげ か
 もお土産を買ってきてくれる隣のお兄
 ちゃん。
 そんな優しいお隣さん達はこの前、迷子
 こ かわ
 の子どものために嫌な顔ひとつせず集
 だごみんゆう
 まって大捜索していた。家はすぐに見つか
 わたし きんじよ
 り、私はこんなご近所さ
 たち
 ん達のようにになりたいと
 おも
 思っている。



地域の活動を通じた交流

中学三年生の夏休み、子ども会の活動
 で、同じ地区の保育園児の子とラジオ体操
 や清掃活動をする機会があった。以前から
 何度か会うことはあったが、話をすること
 はなかったため、新鮮ですごく楽しかった
 のを覚えている。

ある日、近所のスーパーで久々に会った
 とき、笑顔で手を振ってくれたので、とて
 も嬉しかった。小さい子と関わる機会は多
 くないが、こうした地域の活動を通じた交
 流に、心が温まりました。



立派たつぱになったね

私わたしが小ちいさい頃ころお世せ話わになっなっていた地ち域いき
の方かたに久ひさしぶりに会あいました。どれぐらい
会あっていないかも分わからないぐらい久ひさし
ぶりだったので少すし不ふ安あんになっていまし
たが、私わたしを見みた時ときに「立派たつぱになったねえ。」
とほほえみながら言いってくれたのがとて
もつれしかつたです。

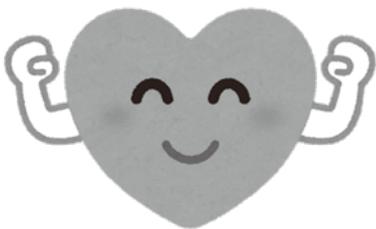
私わたしは、成せい長ちやうしていくにつれ、自じ分ぶんに自じ信しん
がなくなっていたので、その言ご葉はに救すわれ
た気きがしました。



ある人からの一言で

私は自分に自信がなく、すぐにネガティブモードに入ってしまいます。そんな時に、かけてくれた言葉がありました。「頑張りがすぎなくていい、気楽でいい。」と言われて、体の力が抜けた気がしました。ネガティブなのはこれから先もなかなか変わらないと思いますが、その言葉のおかげで考え方は、少し変わりました。

あの時、言葉をくれなかったらずっと力が入ったままだと思います。私も誰かを救ってあげられるような人になりたいです。



試合後の出来事

車いすバスケの試合で、ミスをして監督に怒られ試合後に泣いていると、先輩が「ミスは誰にでもある。まだ始めたばかりだから、大丈夫。ミスをしてでも沢山練習して上達していけばいいわ。」と優しく言うてくれました。それをきっかけに、人一倍練習に励もうと決心しました。

また、先輩が同じことで悩んでいたら、今度は自分が声掛けが出来るようにしたいです。

今は、声を掛けてくれた先輩に追いつくことが出来るように練習に励んでいます。



生まれてきてくれてありがとう

先日、子どもと車で出かけた時、突然「僕はお母さんを選んで生まれてきたの?」と聞いてきた為驚いた。その時は「そうだよ」と返事をする。次の日も同じことを聞いてくる為、「何故そんなことを聞くのか。」と尋ねた。

すると、いつも車の中で聴いているCDの歌詞に、『あなたに会いたくて生まれてきたんだよ』というフレーズがあってそれを聴いて私に聞きたかったらしい。



生徒の声がけから生まれた笑顔

「あれ？閉まっている…。」と校舎前で

困っている家族がいた。

偶然通りがかった高校生が「どうされた

んですか？」と声をかけると、学校見学に

来たが誰もいなくてと告げられ、確認する

と申込先が千葉県ちばけんの姉妹校し妹校となっていた。

すると「せっかくだからですから、男子寮をこ

案内します。」と提案。

後日、その家族から「素敵な生徒さんた

ちですね。」と電話があった。

生徒を誇らしく思うとともに、みんなが

笑顔になった。



令和7年度 ちよつといひ話

令和7年 12月発行

編集 岐阜県環境エネルギー生活部 人権施策推進課

〒500-8570

岐阜県岐阜市藪田南1-1-1

TEL 〇五八-二七二八-二五〇（直通）

FAX 〇五八-二七八-二六一五



人権ミナモ

岐阜県環境エネルギー生活部 人権施策推進課

※この冊子は、法務省委託事業により作成されています。

